

スーパー・メジャーズと中国：中国石油 3 社との対比（3）

エイジウム研究所 上席研究員 木村 徹

この連載の第1回では、①CNPC が純利益では、“スーパー・メジャーズ”のうちの数社に近い結果を残しているのは、中国市場の大きさと、利益構成における上流部門の大きさを反映していること、また、②同社と Sinopec が総収入では、世界の石油企業中、“スーパー・メジャーズ”に次ぐ位置にあるのは中国市場の大きさを物語っていること、を指摘した。第2回は“スーパー・メジャーズ”の利益の部門別構成を調べたので、今回はその地域別構成を調べてみる。

“スーパー・メジャーズ”が発表しているのと同様の利益の地域別構成は、中国の石油3社によっては発表されていない。そこで、参考までに、CNPCの原油・天然ガス生産量の国内外別構成を下の表に示した。これによると、CNPCの原油生産における外国分はかなり急速に上昇しており、2007年には全体の22%に達しているのに対して、天然ガスでは、外国分の割合は2004年の8%を頂点として低下し、2007年には6%まで落ちている。

表 1. CNPC の原油・天然ガス生産量の国内外別構成

表 1.1 原油

(単位:100万トン)	2002	2003	2004	2005	2006	2007
国内	103.66	104.02	104.55	105.94	106.64	107.65
外国	10.13	12.93	16.42	20.03	28.07	29.98
計	113.79	116.95	120.97	125.97	134.71	137.63
(単位:%)	2002	2003	2004	2005	2006	2007
国内	91.1	88.9	86.4	84.1	79.2	78.2
外国	8.9	11.1	13.6	15.9	20.8	21.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 1.2 天然ガス

(単位:10億m3)	2002	2003	2004	2005	2006	2007
国内	22.53	24.88	28.66	36.67	44.21	54.25
外国	0.77	1.39	2.59	2.91	3.80	3.51
計	23.3	26.27	31.25	39.58	48.01	57.76
(単位:%)	2002	2003	2004	2005	2006	2007
国内	96.7	94.7	91.7	92.6	92.1	93.9
外国	3.3	5.3	8.3	7.4	7.9	6.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) CNPC の年次報告

また、紙幅の制約から、表の掲載は避けるが、Sinopec の原油生産の外国分は、上昇しつつあるものの、2007年に全体の16%であり、また、CNOOCの生産における外国分は2007年に原油では7%、天然ガスでは36%であった。

それでは、“スーパー・メジャーズ”の利益の国・地域別構成はどのようになっている

か。まず、アメリカを母国とする 3 社の中では、ConocoPhillips の利益におけるアメリカの割合が最も大きく、開発・生産部門では半分前後¹、精製・販売部門では 4 分の 3 以上の利益がアメリカにおけるものである。

同社は 2002 年、Conoco と Phillips Petroleum が合併して形成された。かつては、これら両社とも“メジャーズ”あるいは“セヴン・シスターズ”に対して、アメリカを主な舞台として活動する“インデペンデント（独立系）”と呼ばれていた。それは、現在の同社の事業活動でもアメリカの比重が非常に高いことに現れている。

表 2. ConocoPhillips の純利益の国・地域別構成

(単位:%)	2003	2004	2005	2006	2007
開発・生産	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	55.2	51.6	50.9	44.2	92.0
その他	44.8	48.4	49.1	55.8	8.0
精製・販売	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	77.8	77.5	79.8	87.4	77.9
その他	22.2	22.5	20.2	12.6	22.1

(出所) 同社の年次報告

アメリカの事業活動が同社全体に占める割合は、2003～2007 年について見ると、原油生産で 38～43%、天然ガス生産で 42～45%であり、さらに、原油処理（精製）で 76～84%、石油製品販売で 78～86%である。これらの数字を上表の数字と比べてみると、精製・販売部門におけるアメリカの比重が精製・販売量と純利益においてほぼ同じであるのに対して、原油・天然ガス生産（開発・生産）部門では、純利益におけるアメリカの比重の方が生産量よりもかなり大きいことが分かる。

これらの数字のアメリカ分を中国分に置き換えると、その程度に差はあるとは言え、母国への依存度が非常に高いという意味で、ConocoPhillips の利益構造は CNPC のそれに最も近い、と言えるであろう。

アメリカを母国とする会社の中で、アメリカへの依存度の大きさに ConocoPhillips に次ぐのは Chevron である。アメリカの事業活動が全体に占める割合は 2003～2007 年について、上流部門では 30～50%、下流部門では 28～49%である（表 3）。もっとも、Chevron のアメリカへの依存度は（特に下流部門で）ConocoPhillips よりかなり低い。それは、同社が 2001 年、当時の Chevron と Texaco の合併により形成された会社であり、これら両社、さらに旧 Chevron が 1984 年に吸収した Gulf も、“セヴン・シスターズ”の一員であったことによる。

¹ ただし、2007 年は例外であり、これは主に、2007 年 6 月にヴェネズエラで接収された石油権益を消却したことによる。

表 3. Chevron の純利益の国・地域別構成

(単位: %)	2003	2004	2005	2006	2007
上流	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	49.7	40.8	35.6	32.5	30.6
アメリカ以外	50.3	59.2	64.4	67.5	69.4
下流	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	41.3	38.8	35.4	48.8	27.6
アメリカ以外	58.7	61.2	64.6	51.2	72.4

しかし、Chevron の上流部門におけるアメリカの収益性の高さは ConocoPhillips と共通しており、しかも、Chevron では、下流部門においても、アメリカの収益性が高い（純利益の比率と使用資本²のそのの比較による。青字は前者の方が大きいことを示す）。

表 4. Chevron の使用資本の国・地域別構成

(単位: %)	2003	2004	2005	2006	2007
上流	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	28.2	24.5	23.4	23.3	22.9
アメリカ以外	71.8	75.5	65.9	66.8	68.4
営業権	0.0	0.0	10.7	9.8	8.7
下流	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	29.0	25.3	27.4	29.0	32.3
アメリカ以外	71.0	74.7	72.6	71.0	67.7

(出所) 表 3、4 とも、同社の “2007 Supplement”

最後に、ExxonMobil の利益におけるアメリカ事業の比重は Chevron より小さい。それは 2003～2007 年について見ると、純利益全体では 25～32% であり、部門別には、「探鉱・開発・ガス・電力」では 18～30% と比較的低いものに対して、「精製・販売」では 38～50% とかなり高い。このような事実は、同社が上に述べた両社よりも母国への依存度が小さく、その意味で、より国際化されていることを示している。

表 5. ExxonMobil の純利益の国・地域別構成

(単位: %)	2003	2004	2005	2006	2007
探鉱・開発・ガス・電力	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	26.9	29.7	25.5	19.7	18.4
アメリカ以外	73.1	70.3	74.5	80.3	81.6
精製・販売	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	38.3	38.3	48.9	50.3	43.0
アメリカ以外	61.7	61.7	51.1	49.7	57.0
化学	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	26.6	29.8	30.1	31.0	25.9
アメリカ以外	73.4	70.2	69.9	69.0	74.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	29.0	31.6	31.1	27.6	25.0
アメリカ以外	71.0	68.4	68.9	72.4	75.0

一方、同社のアメリカ事業の収益性は、全体的には、上に述べた両社に比べると、特に

² 前回は平均使用資本と書いたが、使用資本の誤りである。なお、BP および Total についても、平均使用資本ではなく、使用資本であった。また、後述の通り、Shell は部門別・地域別の使用資本を公表していた。

高くはないようである。アメリカにおける平均使用資本の比率は全体の 25~30%であり、年毎に見ても、2004~2007 年において僅かに純利益の比率を上回っているに過ぎない。特にその「上流」(生産・開発・ガス・電力)部門では、収益性は相対的に低い。

表 6. ExxonMobil の平均使用資本の国・地域別構成

(単位:%)	2003	2004	2005	2006	2007
探鉱・開発・ガス・電力	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	28.3	26.4	25.3	24.1	22.1
アメリカ以外	71.7	73.6	74.7	75.9	77.9
精製・販売	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	30.0	28.1	26.9	27.3	25.0
アメリカ以外	70.0	71.9	73.1	72.7	75.0
化学	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	36.8	35.9	36.6	37.3	35.4
アメリカ以外	63.2	64.1	63.4	62.7	64.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	30.2	28.4	27.5	26.7	24.5
アメリカ以外	69.8	71.6	72.5	73.3	75.5

(出所) 表 5、6 とも、同社の年次報告

ところで、アメリカが母国ではない Shell や BP も、利益におけるアメリカへの依存度は高い(なお、Total は地域別・国別の利益および使用資本を公表していない)。まず、Shell におけるアメリカ事業は、2003~2007 年について見ると、利益全体の 5 分の 1 から 4 分の 1 を占めており、部門別に見ると、開発・生産では 4 分の 1 から 3 分の 1、また、精製・販売では、2003 年を除くと、ほぼ 4 分の 1 がアメリカにおけるものである。

表 7. Shell の純利益の国・地域別構成

(単位:%)	2003	2004	2005	2006	2007
開発・生産	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	31.9	34.8	27.2	25.6	25.4
その他	68.1	65.2	72.8	74.4	74.6
ガス・電力	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	6.3	-10.5	2.4	10.9	16.8
その他	93.7	110.5	97.6	89.1	83.2
オイルサンド	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
石油製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	14.0	25.3	22.6	25.8	26.5
その他	86.0	74.7	77.4	74.2	73.5
化学製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	250.2	9.3	4.5	0.0	10.5
その他	-150.2	90.7	95.5	100.0	89.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	20.9	25.2	22.5	22.5	23.5
その他	79.1	74.8	77.5	77.5	76.5

(出所) 同社 Annual Report (2007)

さらに、アメリカにおける開発・生産では、使用資本の比率以上に大きな利益を上げており、利益の比率は使用資本のそれの約 2 倍か、それ以上に達している。その結果、この間、全部門合計でアメリカにおいて使用資本の比率以上に利益を上げている年が多い。

表 8. Shell の使用資本の国・地域別構成

(単位:%)	2003	2004	2005	2006	2007
開発・生産	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	15.6	14.4	13.5	11.5	13.0
その他	84.4	85.6	86.5	88.5	87.0
ガス・電力	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	42.2	30.8	30.8	22.8	16.6
その他	57.8	69.2	69.2	77.2	83.4
オイルサンド	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
石油製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	31.4	31.1	30.1	27.2	24.1
その他	68.6	68.9	69.9	72.8	75.9
化学製品	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	28.2	29.2	36.1	31.4	29.1
その他	71.8	70.8	63.9	68.6	70.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
アメリカ	25.9	23.5	23.2	19.7	18.8
その他	74.1	76.5	76.8	80.3	81.2

(出所) 同社の Financial and Operational Information (2003-2007)

BP は純利益と使用資本の国・地域別構成について、部門別の数字は発表していない。全部門合計では、アメリカにおける事業は 2003~2007 年の間、2007 年を例外として、利益全体の 3 分の 1 以上を占めており、その割合は Shell よりも大きい。また、2004 年と 2005 年には、アメリカにおける利益の比率が使用資本のそれを上回っており、アメリカ事業全体の収益性という点では、BP はシェルとほぼ同じような状況にあるのかもしれない。

表 9. BP の純利益・使用資本の国・地域別構成

表 9-1. 純利益

(単位:%)	2003	2004	2005	2006	2007
イギリス	15.6	5.5	4.6	12.6	12.1
その他ヨーロッパ	7.9	11.4	15.0	7.9	13.8
アメリカ	36.8	37.8	38.1	32.7	20.4
その他	39.7	45.3	42.3	46.8	53.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 9-2. 使用資本

(単位:%)	2003	2004	2005	2006	2007
イギリス	16.5	17.8	13.6	15.6	13.6
その他ヨーロッパ	10.4	11.6	8.5	7.7	10.9
アメリカ	38.3	34.8	37.0	33.8	33.2
その他	34.9	35.9	40.9	42.9	42.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(続く)